

田山系 般若絵心経



注記：ここで参考にした手元の図版では、後ろから三行目の七つ目と、後ろから五行目の四つ目の絵が「○(魅・ふ)」となっている。しかしこれは、「しゅ」であると考えられることから、ここでは「しゅ」とする絵に置き換えた。従ってこの図は原図とは異なる。これは経を書き写して行く過程で間違いが生じたのではないと思われる。

田山系 般若絵心経 絵文字の解説

 「敷居」の方言	 貝(かい)	 王将(おうしょう)	 棺(かん)	 田	 的(まと)
 焼麩(やきふ)	 九本の線	 剣(けん)	 材(ざい)を切る鋸	 樹木の芯(しん)	 側(かわ)の「か」
 舍利 [釈迦の骨]	 お堂	 五本の線	 菩薩像	 [形①]	 般若面
 四本の線	 一本の線	 動物の「尾」	 神社	 [形②]	 [形③]
				 行堂(ぎょうどう)	 妊婦のお腹

 腹(はら) ^{はら}	 仏像(ぶつぞう) ^{ぶつ}	 笹(ささ)の葉 ^{ささ}	 箕(み) ^み	 馬(め) ^め	 敷居(しきい) ^{しき}
 僧侶(そうりよ) ^そ	 口を開けた「あ」 ^あ	 柄(え) ^え	 繩(なわ) ^な	 杖(つえ) ^つ	 食べ物の「麩(ふ)」 ^{ふ・ぶ}
 犬の鳴き声「わん」 ^わ	 工具の鑿(のみ) ^の	 鶏(けい) ^{けい・げ}	 茗荷(みょうが) ^{みょう}	 状(じょう) ^{じょう}	 井戸(いど) ^い
 蚊(か) ^か	 俵(たわら)の方言 ^{たら}	 兎(うさぎ) ^う	 牢屋(ろうや) ^{ろう}	 象(ぞう) ^{ぞう}	 僧(そう) ^そ
<p>この、般若心経を絵で表した「絵心経」は、正徳2年(1712年)頃に、盛岡藩田山地方(現在の岩手県八幡平市田山地区)で成立したとされ、田山系と呼ばれる。創案したのは、書、画、天文などに明るい善八という人で、善八は平泉から田山に移り住み、そこで暮らしながら「絵心経」や「絵暦」(絵暦は善八暦などとも呼ばれる)などを創案、田山は当時、しばしば冷害、飢饉、はやり病などに見舞われ、不安に陥った文字が読めない人たちのための心の安寧に役立てようとしたとされる。</p> <p>この「田山系絵心経」は、天明4年(1786年)に橋南谿が表した『諸国奇談東遊記』によって紹介され、広く知られるところとなった。「田山系絵心経」の絵文字は、象形文字に近く原始的で、直感的に読みとれるよう心遣いがなされている。</p> <p>この、田山系からおおよそ百年後に、同じ盛岡藩の盛岡城下で、藩お抱えの印判彫刻兼摺物師の手による写実的な絵の『盛岡系』と呼ばれる絵心経が作られることになる。</p> <p>参考： ・監修 佐藤勝部 トリョー・コム 1973年刊 ・『般若心経を解く』 大法輪閣 1982年刊 など</p>	 脈(みやく) ^{みやく}	 鈴(りん) ^り	 朱肉(しゆにく) ^{しゆ}	 香の匣(こうのず) ^こ	 桑(くわ)の実 ^く
	 桶屋の工具の栓(せん) ^せ	 天(てん) [雲に太陽] ^{てん}	 目(め) ^め	 籌木(ちゅうぎ) ^{ちゅう}	 銭(ぜに) ^ぜ
	 輪(わ) ^わ	 子(ね) ^ね	 乳房(ちぶさ) ^ち	 線が六本 ^む	 重箱(じゅうばこ) ^{じゅう}
	 猿の鳴き声・叫び声 ^{ぎや}	 半円(はんえん) ^{はん}	 砥石(といし) ^と	 線が二本 ^に	 刈った稲を円錐形に積み上げた「にお」 ^{によ}
	 手(て) ^て	 線が三本 ^{さん}	 台(だい) ^{だい}	 機織りの杼(ひ) ^{ひ・び}	 帆(ほ) ^{ほ・ぼ}